

府中市生涯学習ボランティア

悠学の会

10年のあゆみ



2014年8月（平成26年）

府中市生涯学習ボランティア 「悠学の会」のめざすもの

本会は、府中市社会教育関係登録団体として、市民の生涯学習を支援するとともに、会員相互の交流・親睦を通じて、会員の生涯学習の進展を図ることを目的とする。
(会則より)

府中市生涯学習センターにおけるボランティア活動の主な分野

1. 市民のみなさんへの学習情報の提供
情報誌紙の収集と館内掲示、講座記録冊子の発行、「生涯学習だより」の発行、映像情報の制作と提供など
2. 市民のみなさんへの学習機会の提供
教養講座、映像による教養講座、パソコン講座の企画・運営・支援など
3. 市民のみなさんへの交流機会の提供
府中市生涯学習フェスティバル運営への参画など

目 次

ごあいさつ 生涯学習ボランティア「悠学の会」代表	山内 啓司	2
祝 辞	府中市長 高野 律雄	3
祝 辞	府中市生涯学習センター館長 石田 護朗	4
祝 辞	府中市いきいきプラザ館長 鎌田 義恵	5
「悠学の会」のあゆみ		6
「悠学の会」の現況		8
各グループの活動		
☆ 学習情報グループ		9
☆ 講座記録グループ		10
☆ 情報紙作成グループ		11
☆ 映像作成グループ		12
☆ 講座企画グループ		13
☆ 映像活用グループ		14
☆ パソコングループ		15
府中市生涯学習フェスティバル		16
生涯学習ボランティア養成講座、会員研修など		18
会員の声		19～24

ごあいさつ



悠学の会設立 10 周年を迎えて

生涯学習ボランティア「悠学の会」

代表 山内 啓司

「悠学の会」は、今年（平成 26 年）設立 10 周年を迎えました。10 年にわたる生涯学習ボランティアの活動を振り返る時、大変感慨深いものがあります。行政からいただいた数々のご支援、会員の努力、それに加えて市民のみなさんからの暖かい励ましに深く感謝いたします。

府中市の生涯学習の中心施設として、生涯学習センターが開設されたのは平成 5 年ですが、さまざまな学習設備を備えた立派な施設を市民のみなさんが有効に利用できるように、学習センターは、まもなく施設の運営をお手伝いする市民ボランティアの参加を呼びかけました。

平成 13 年には、陶芸ボランティア（陶芸窯の運用の専門家）、カラープリントボランティア（カラープリントの設備運用の有資格者）に日常の運用を任せる体制が整えられて、次いで平成 14 年には、ボランティア養成講座や生涯学習指導者養成講座などが開催され、パソコンボランティア、学習情報ボランティアが活動を始めました。

平成 15 年 3 月には、府中市生涯学習推進協議会が、府中市教育委員会の諮問に答えて、「生涯学習ボランティアの育成及び活用方策について」の答申を提出し、その中で生涯学習ボランティアの役割や意義が述べられています。

当初は個別のボランティアグループとして活動していましたが、行政側からも、ボランティア側からもボランティアの組織体をつくろうという機運がたかまり、平成 15 年 12 月に「ボランティア組織設立準備会」ができて、紆余曲折の議論を経たのち、平成 16 年 3 月 27 日に「悠学の会」設立総会を迎えました。

当時のボランティア活動の基本姿勢は次のとおりでした。

- ・市民による、市民のための生涯学習情報、生涯学習の場の提供
- ・「学ぶ学習から活かす学習」の企画と実践
- ・学習事業係とのパートナーシップによる生涯学習の充実実現

生みの苦しみ、育てる苦しみはたくさんありましたが、会員がお互いに協力しあって乗り越えてくることができました。

生涯学習センターは、平成 25 年度より、民間の指定管理者による運営となりましたが、「悠学の会」は引き続き、市および指定管理者と協働して、市民のみなさんの生涯学習を支援するボランティア活動を行ってまいりますので、ご支援をよろしく願います。

祝 辞

設立 10 周年を祝して



府中市長 高野 律雄

このたび、府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」が、めでたく設立 10 周年を迎えられ、その記念誌が刊行されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、日頃より、山内代表をはじめ貴会の皆様には、市政の各般にわたりご理解ご協力を賜り、府中市の生涯学習の推進に多大なるご貢献をいただいておりますことに、心から厚くお礼を申し上げます。

現在、超高齢社会を迎え、心の豊かさを求める声はより増してきており、人が持つ学習意欲は、歳を重ねても衰えることなく、むしろ盛んになる傾向にあります。生涯学習が定着して久しく経ちますが、成熟社会だからこそ、その取り組みは、欠かせないものと実感しております。

貴会におかれましては、早くから生涯学習センターにおけるボランティア団体として、講座の企画や運営の補助、機関誌の発行、生涯学習情報の収集など、多岐にわたり活動されております。また、「ふちゅうカレッジ講座記録シリーズ」におきましては、年ごとのテーマで取組まれておりますが、昨年は、生涯学習フェスティバルの府中市美術館長と私との特別対談について、ご編纂いただき、改めまして感謝申し上げます。

本市では、平成 5 年に生涯学習センターを開館させて、市民の皆様の学びの機会を創出するために、教養講座やスポーツ講座のほか、生涯学習フェスティバルをはじめとする各種イベントをボランティアの皆様と共に開催し、また、「学び返し」の実践により、自身の知識や技能を地域や他の世代に還元できるよう取り組んでまいりました。

今年度、市制施行 60 周年を迎え、これまでの歴史を振り返り、新しい未来を生み出す礎の年となりますよう「ともに未来へ 笑顔あふれる わがまち府中」をキャッチコピーに、将来のまちの姿を見据えた、洗練された魅力あるまちづくりに邁進しております。生涯学習の推進にあたりましては、昨年度、時代の求めに応じられるよう、生涯学習センターを指定管理者による運営に変更したほか、今後は市民の皆様と協働でつくりあげた学習の場や多様な学習機会を捉え、「学び返し」による地域教育力の向上に努めてまいります。どうか、貴会の皆様におかれましては、これまでと変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、設立 10 周年を迎えられた「悠学の会」の今後ますますのご発展と、関係皆様のご健勝ご活躍をご祈念申し上げまして、お祝いのことばとさせていただきます。

祝 辞

設立 10 周年を祝して



府中市生涯学習センター

館長 石田 護朗

本年「悠学の会」設立 10 周年を迎えられ、10 周年を記念した冊子の発行に当り、お祝いと日頃からの生涯学習センター事業への多大なるご協力活動に厚く御礼を申し上げます。

昨年（平成 25 年 4 月）より、府中市から指定管理者に運営が移行いたしました。前年までと同様、活発な会活動を賜り、お陰様をもちまして講座数も増え来館者も増えてまいりました。

「悠学の会」の各グループの皆様には、それぞれの活動を通して生涯学習センター事業を盛り上げていただきました。

主な活動として、学習情報グループの皆様には学習情報コーナーにおける情報誌のファイルや新聞クリッピングコーナーでの設置や掲示等、講座記録グループの皆様には耳目を集めた講座・講演を冊子にいただき市内図書館等への配布、情報紙作成グループの皆様には『生涯楽習だより』の発行、講座企画グループの皆様には講座企画や教養講座の支援・講座運営等についての提言、映像活用グループの皆様には「映像による教養講座」の企画・運営、パソコングループの皆様にはパソコン講座の運営、映像作成グループの皆様には収録・編集・施設訪問による投影会を中心に活動いただきました。

また、生涯学習センター最大のイベント「府中市生涯学習フェスティバル」への参画、「府中の森の文化まつり」へのご協力、ボランティア入門講座への協力、市民企画講座の審査の協力等、多岐にわたり生涯学習センターの運営に大きくかかわっていただいております。

ボランティア団体として府中市民の皆様には最新、そして最良の情報を発信していただき、府中市の生涯学習促進を強力にサポートしていただいております。

「悠学の会」の皆様と生涯学習センターは、不即不離の関係にあります。「協働」をテーマに府中市民の皆様の生涯学習の振興を図るとともに「学び返し」を推進し、府中市民の皆様の市民生活に寄与していきたいと考えております。

何卒、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに「悠学の会」の益々のご発展をお祈りいたしております。

祝 辞

次世代へつなぐ



府中市いきいきプラザ
館長 鎌田 義恵

創立 10 周年を迎えた、「悠学の会」の皆様、おめでとうございます。

ひとえに、多くの会員の皆様が、地道な活動を、生涯学習センターを拠点として、続けてくださっていたからこそ、現在の、市民に支えられている様々な、生涯学習活動が広がっているのだと存じます。

思いおこせば、平成 5 年に巨大な、府中市の独自施設として、市民の生涯学習センターがオープンし、全国からたくさんの視察が相次ぎました。

市内には、すでに地域ごとに、昭和 40 年代から、高齢者福祉館、児童館、公民館機能を、合わせ備えた 11 の文化センターが存在し、社会教育活動や文化活動を展開しておりました。生涯学習センターは、あくまで、全市的な活動の拠点を当時はめざしておりました。

箱ものが巨大でも、中身は柔らかく、どの層の市民のニーズにも対応できるのが理想です。

市民のための、組織に裏打ちされた市民の活動が、経済的にも次第に厳しくなる府中財政には、ますます必要で、かつ大切な財産となってまいります。

平成 25 年度には、高野市政の公約ともいえる市民活動推進のために、市の組織に、市民協働推進本部を立ち上げ、市制 60 周年にあたる、平成 26 年度には、温故知新の 60 周年を運営方針の一つにかかげ、過去を振り返りつつも、市民との対話と絆をつよめ、いきいきと住み続けたいまち、府中を目指しています。

私は、児童福祉分野から異動し、平成 13 年度から 5 年間生涯学習に関わり、悠学の会の立ち上げに関わらせていただきました。この間、高齢者世代になっても、学び続け、ボランティアなど、活躍する多くの市民の方と出会いました。

最後は福祉保健部で仕事をし、退職後は、過去の経験も生かせる保育所と介護予防推進センターの合築施設で、地域のボランティア市民にも支えられ、活動を続けております。

少子高齢化社会に突入し、市民の持てる能力、人脈、気力、活動力と民間のエネルギーと、行政との協働が、今後もっと活かせる、活きると存じます。

「悠学の会」が、今後とも地域のファシリテーターとなり、次々と新たな仲間を増やし、市民の大きな絆となり、様々な場面で活躍することを期待して、お祝いの言葉といたします。

「悠学の会」のあゆみ

(* は府中市の生涯学習にかかわる項目)

- 1993年(H5)5月 * **府中市生涯学習センター開設**
- 1994年(H6)9月 * 第1回府中市生涯学習フェスティバルを開催 (以後毎年開催)
- 1999年(H11)3月 * 府中市生涯学習推進計画「市民カレッジ展開に向けて」策定
- 2001年(H13)1月 * 「ふちゅうカレッジ100」発足
- 2001年(H13)4月 * 府中市教育委員会から府中市生涯学習推進協議会に、「生涯学習ボランティアの育成及び活用方策について」を諮問
- 2002年(H14)4月 生涯学習センターで生涯学習ボランティア募集**
陶芸ボランティア(18名)、
カラープリントボランティア(11名)、
パソコンボランティア(27名)、
学習情報ボランティア(41名)が登録
- 2002年(H14)5月 「学習情報ボランティア実施要項」作成
- 2002年(H14)9月 『ふちゅう東西南北・生涯楽習だより』創刊
- 2003年(H15)3月 * 府中市生涯学習推進協議会、「生涯学習ボランティアの育成及び活用方策について」を答申
- 2003年(H15)10月 生涯学習センターがエル・ネットによる大学公開講座を都内で初めて開講
- 2004年(H16)4月 生涯学習ボランティア「悠学の会」設立(会員数72名)**
学習情報誌管理グループ、新聞クリッピンググループ
講座記録グループ、情報紙作成グループ、
講座企画グループ、エル・ネットグループ、
パソコングループの7グループで活動開始
- 2005年(H17)8月 府中市NPO・ボランティア活動センターに利用団体として登録(以後毎年更新)
- 2006年(H18)6月 「映像情報グループ」誕生
- 2009年(H21)4月 * 第2次府中市生涯学習推進計画(平成21年度～平成30年度)策定、学んだことを地域に返す、「学び返し」の提唱
- 2010年(H22)6月 「生涯学習ネットワーク in 多摩」の設立に参加
- 2011年(H23)1月 「悠学の会」を府中市社会教育関係団体として登録 (以後毎年更新)
- 2012年(H24)6月 会員向け「悠学の会」ニュース(月刊)を発行
- 2012年(H24)8月 山内代表、府中市のテレビ広報番組「まるごと府中1・2・3」に出演
- 2013年(H25)4月 * 生涯学習センターの運営が市直営から指定管理者(ふちゅう生涯学習センター共同事業体)に移行**
市・指定管理者・「悠学の会」の三者で生涯学習センターにおけるボランティア活動についての「三者取決め」を交換
- 2014年(H26)8月 「悠学の会」設立10周年記念冊子の発行



府中市生涯学習センターの全景



ボランティア養成講座
(2003.12)



定期総会(2011.5)

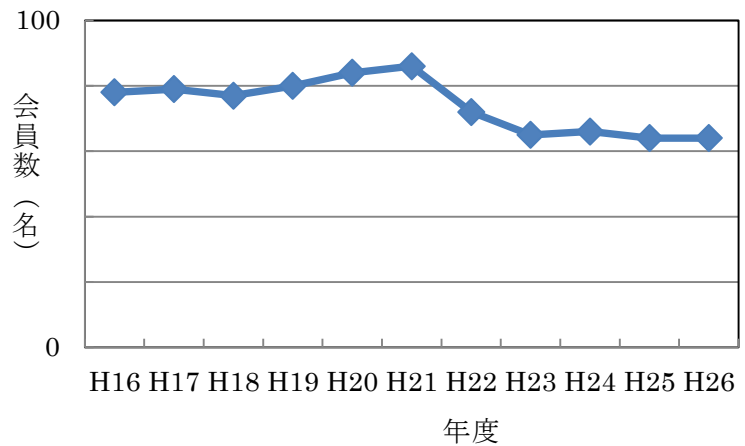


定期総会(2013.4)

「悠学の会」会員数の推移

2004年4月	78名
2005年4月	79名
2006年4月	77名
2007年4月	80名
2008年4月	84名
2009年4月	86名
2010年4月	72名
2011年4月	65名
2012年4月	66名
2013年4月	64名
2014年4月	64名

(市の決算資料より)



歴代代表 (任期2年、2期まで)

2004年4月～2008年3月	結城 徳好(晴見町)
2008年4月～2012年3月	宍戸 茂(新町)
2012年4月～ 現在	山内 啓司(西府町)



総会後の原田生涯学習課長補佐を囲む懇親会 (2008.5)
前列左より、山内、宍戸、原田、結城の各氏

主な定例活動

- 各グループの定例活動
- 府中市生涯学習フェスティバル(9月)への参画
- NPO・ボランティアまつりへの参加(11月)
- ボランティア養成講座の企画・運営
- 会員研修旅行(日帰りバス旅行)
- 関係諸団体との交流など

活動スナップ



ウチワづくり



パソコン教室



映像撮影



講座受付



くるくるレインボーづくり



フェスティバル・プログラム印刷

「悠学の会」の現況

1. 府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」とは

府中市生涯学習センターで、市民のみなさんのさまざまな生涯学習を支援するボランティア活動を行っている自主団体です。

2. 「悠学の会」の活動方針

- (1) 生涯学習センターが市民に親しまれ、市民のみなさんが充実した生涯学習を進められるように、市および指定管理者と協働して、学習事業の企画・運営・支援のボランティア活動を行います。
- (2) 会員の自発性・自主性を尊重し、役割を分担して、お互いに学び合い、助け合いながら、楽しく活動できるようにつとめます。
- (3) 会員間での情報共有につとめ、市民のみなさんへの情報発信を充実させて、「社会教育関係団体」としての自立した活動をめざします。

3. 「悠学の会」が、市・学習センター指定管理者と協働する事業

- (1) 市民のみなさんへの学習情報の提供
情報誌紙の収集と館内掲示、講座記録冊子の発行、「生涯学習だより」の発行、映像情報の制作と提供など
- (2) 市民のみなさんへの学習機会の提供
教養講座、映像による教養講座、パソコン講座の企画・運営・支援など
- (3) 市民のみなさんへの交流機会の提供
府中市生涯学習フェスティバル運営への参画など

4. 「悠学の会」の組織と運営

会員数 64名 (2014年4月現在)
総会：定時総会(年会)、臨時総会
運営委員会：毎月第2金曜日開催
各グループの定例会(月例)



市制60周年記念カウントダウンイベントに参加(2014年3月)



平成26年4月

学習情報グループ

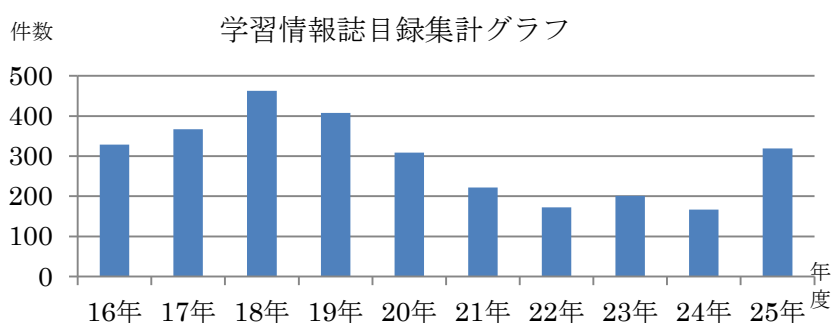
➤ 活動の目標

1. 学習情報の受信と発信のそれぞれの役割を目指して、学習情報誌および新聞情報の整理と市民への公開を行う。
2. グループ内の会員同士の融和を大切にし、作業の共同化に努める。
3. 各グループ間の作業内容の理解を図り、市民への学習情報の PR に寄与する。

➤ 活動の実績

「悠学の会」発足前の平成 14 年度から 16 年度までは、生涯学習センターに寄せられる学習情報誌紙の量は多大であり、書棚いっぱいに行物が展示されていた。「悠学の会」が創立され、これらを整理する目的で、『学習情報誌管理グループ』という名前での活動がスタートした。市民への学習情報の提供という点から、一階のフロアー西側に学習情報コーナーを設け、各月ごとに寄せられた情報誌を個別にファイルした。また目録表を毎月作成し掲示した。

平成 16 年度から 10 年間の学習情報誌目録集計表は下表の通りである。



新聞クリッピング・グループは、「悠学の会」発足以来、広範囲にわたる新聞記事のクリッピングを行い、一階のフロアー西側において公開掲示に努めてきた。原則月に 3 回の張り替えとファイリングによる保存を行っている。平成 25 年度から学習情報コーナーとして、情報誌と新聞クリッピングを同一場所で公開することとした。

➤ これからの活動

1. 学習情報発信の役割は、新聞クリッピングも学習情報誌管理も同じであることから、平成 25 年度から両グループが統合し、学習情報グループとして発足した。
2. 学習情報誌目録は、①政府・東京都関係 ②大学関係 ③府中市関係 ④専門学校・文化・スポーツ関係 ⑤区市町村関係 に大分類し、さらに個別具体的に細分類し、ファイリングし掲示する。今後は、目録内容の PR 活動を推進する。
3. 新聞クリッピングは、①健康 ②文化・教養 ③科学 ④高齢者 に大別して掲示後はファイリングする。



学習情報グループ

講座記録グループ

➤ 活動の目標

文字離れの中でも、「本」の価値は大きい。ビデオやCD等は機種が進歩等で再生不能になるが、「本」は電気を使わなくても読めるという利点があります。当グループは講堂で実施された講演会内容を冊子にしています。

この作業は、①書き起こし原稿の作成、②分担原稿のまとめ、③本文の締め原稿を校正刷り、④冊子の組み立て、⑤著者(講師)校正、⑥印刷原稿の作成、⑦本文の印刷、⑧印刷後の点検等を通じて各自が得意分野を発揮しつつ、協働作業に対する責任感の醸成をはかり、講座記録グループの結束を高め、各自が冊子作成に携わった喜びとともに、完成した冊子が、後世に引き継がれて行く事が目的です。

なお、冊子については、市内の図書館等で、市民がいつでも手軽に読める仕組みとなっています。

➤ 活動の実績 ふちゅうカレッジ講座記録シリーズ

2003年2月より2014年3月まで15冊子を発行しました。

1. 『詩人・父親 村野四郎』 村野晃一 2003年2月刊
2. 『村野四郎の人と作品 現代詩の味わい方』
一村野四郎から現代詩人まで― 比留間一成 2003年9月刊
3. 『生涯学習とまちづくり』 瀬沼克彰 2005年7月刊
4. 『地域アニメーターの役割と町づくり』 工藤日出夫 2005年7月刊
5. 『日本経済の現状と今後のゆくえ』 正村公宏 2007年3月刊
6. 『宮本常一から学ぶ「読む力」の復活』 佐野真一 2008年3月刊
7. 『笑いは百薬の長』 松井壽一 2009年3月刊
8. 『ガンディーとお金持ち』 内藤雅雄 2010年3月刊
9. 『日本はどう未来を切り拓こうとしているのか』
～総選挙を通して見えてきたもの～ 佐々木毅 2010年3月刊
10. 『裁判員裁判の意義』 神山啓史 2011年3月刊
11. 『国際化時代の日本経済の課題』 松島正之 2011年3月刊
12. 『司馬遼太郎の歩いた道』～その紀行と思索～ 近江散歩・羽州街道 北山章之助 2012年3月刊
13. 『司馬遼太郎の歩いた道』～その紀行と思索～ 叡山の諸道・竹内街道 北山章之助 2012年11月刊
14. 『三国志の世界』 渡邊義浩 2013年9月刊
15. 『世界の名画を府中に』～市民と語る美楽の世界～ 2014年3月刊
市長 高野律雄・府中市美術館長 井出洋一郎(対談)



『世界の名画を府中に』口絵

➤ これからの活動

芳野達男リーダーのもと、グループ9名で年2回の講演会を目標にして冊子化を図って行きます。

講座記録、冊子製作に興味をお持ちの方はどうぞご参加ください。

情報紙作成グループ

➤ 活動の目標

ふちゅう東西南北「生涯学習だより」を年4回企画編集（発行元は府中市と生涯学習センター）。A4 4頁で1,000部発行し、生涯学習センターをはじめ、市内の各文化施設で配布しています。

府中は古い歴史をもち、豊かな緑や水の自然に恵まれ、産業も盛んで文化やスポーツも地域に根付いています。市内には生き活きと活動する多くの市民の自主グループがあります。ふちゅう東西南北と名づけたのは、そんな府中を再発見し、市民の皆さんに伝えていきたいとの思いからです。また「学習だより」には、ともすれば堅苦しく感じられる「生涯学習」を、みんなでわいわい楽しくやろうよとの気持ちを込めています。

➤ 活動の実績

創刊：平成14年(2002)9月。最新刊(第48号)：平成26年(2014)6月。

「継続は力なり」といいますが、1号も途切れることなく続いてきたのは、誇れる実績です。

歴代リーダー：田井(第1号～第23号)、根岸(第24号～第39号)、奥野(第40号～)。

創刊号の企画編集は、生涯学習センター指導のもと、6名の府中市生涯学習情報ボランティアにより行われました。主に第9回府中市生涯学習フェスティバルの案内記事を掲載しました。

主な記事：生涯学習に関する市行政や生涯学習センターからの発信情報、市の学習施設案内、市民の活動紹介、市民の声、関係者への取材、府中の歴史・自然・文化の紹介など。

また、企画記事としては、「府中の歴史」、「川崎平右衛門あれこれ」、「武蔵府中郷土かるためぐり」、「わが町紹介」などで、府中の埋もれた情報の発掘に努めています。

平成25年(2013)に生涯学習センターは民間の指定管理者による運営となりました。それに伴い、「生涯学習だより」の電子版を、生涯学習センターのホームページに掲載しています。

➤ これからの活動

市民の皆さんが、それぞれ自分に合った学びを選択し、学びの実践を通じて、生きがいのもてる心豊かな生活ができるように、さまざまな情報を発信していきます。この「生涯学習だより」が、少しでも、皆さんが学びを始めるきっかけになればと思います。

これからも、“親しみやすい、わかりやすい、楽しい”を目標に、紙面づくりに努めます。また、グループ活動は、“みんなで楽しく”、それぞれの持ち味を發揮してすすめていきます。新しいメンバーの参加、大歓迎です。



「生涯学習だより」



情報紙作成グループ (2013)

映像作成グループ



➤ 活動の目標

「悠学の会」創設から2年後、平成18年6月に映像作成グループは誕生した。文字メディアと映像メディアが車の両輪で市民に情報発信することこそが学習情報の根幹であると当時会員である福間氏と熱っぽく話し合ったのが昨日のことのよう思い出す。会員は6名でスタートした。まず、撮影をして作品を作ってみようと挑戦したのが「府中の崖線を歩いてみよう」でした。夏の暑い盛りの日を京王線の飛田給から府中の崖線をひたすら歩き日本電気のところまで撮影していった。体力のある4名で10時から夕方6時まで撮影した。編集は山田氏に頼み、ナレーションは森山氏に頼んでどうにか第1作目を完成させた。あれから8年、会員も4名の入れ替わりがありました。リーダーは福間氏・萩原氏・三宅氏と継承され、編集・交渉の得意な方が次々と撮影・編集をこなしてきた。

作品は施設での利用・グループ利用と徐々に広がってきている。これから未来に向けて楽しく作品作りに取り組んでいこうと決意を新たにしているところです。

➤ 活動の実績

1. 府中の崖線を歩いてみよう (H18)
2. 浅間山の自然を中心に神社・公園めぐり (H18)
3. 田んぼの学校・府中かんきょう市民の会依頼 (H18, H19, H20, H21, H22)
4. レンゲまつり (H18, H19, H20, H21)
5. 府中小唄踊り方・府中観光協会より依頼 (H21)
6. どんど焼き (H19, H20, H21)
7. よさこいIN府中 (H20, H21)
8. ジャズIN府中 (H22)
9. 府中歴史まつり (H22)
10. くらやみ祭り (H21, H23)
11. 随神門上棟式 (H22)
12. 郷土の森・梅まつり (H23)
13. 随神像送り込み (H23)
14. 節分祭(H23)
15. 府中の桜めぐり (H23)
16. 武蔵の森プロムナードと多磨霊園 (H23)
17. 西府土地整理組合10年の歩み・撮影・編集(H25, H26)

以上17作品を制作した。



レンゲまつり



よさこいIN府中



くらやみ祭り

➤ これからの活動

1. 市民に親しめる作品の制作 (府中小唄・府中市の歌・ぶんぶんぶん)
2. 会員の制作技術の向上 (パソコン編集の習得・撮影のテクニック・ナレーションの効用・BGM)
3. 作品活用の広報 (作品の目録作り・チラシの配布)
4. 会員の増員 (興味のある方の人材確保)

講座企画グループ

➤ 活動の目標

活動の柱は、生涯学習センターがいろいろの教養講座を提供するにあたり、

(1) 講座の運営(受付)、(2) 講座の企画の両面で支援・協力することを基本としています。

活動に当たっては、「市民の声のパイプ役/市民の学習機会・交流機会の橋渡し役」を果たすことができるよう努めていきます。



講座企画グループ

➤ 活動の実績

「悠学の会」設立当初から、グループメンバーは、概ね、15名前後で推移しています。

(1) 講座運営支援では、指定管理者制度移行前は、年間20～25講座程度(約100～120コマ)の受付を担当してきました。

(2) 「悠学の会」企画講座については、発足当初は、「生活と文化」をテーマとした講座をはじめ2講座程度を実施し、平成20年度以降は、年間5講座程度を企画してきました。最近の企画では、①府中に親しみをそだてるもの(府中再発見講座など)、②生涯学習センターを市民交流の場にするもの、③文学・歴史・芸術・科学技術などの教養講座、④現代的課題を念頭に、学習センター主催講座との調整をとりながら進めています。

最近3年間の実績表

	教養講座受付			「悠学の会」企画講座		
	講座数	延べ講座回数	延べ担当者数	講座数	延べ講座回数	延べ受講者数
平成23年度	25	116	339	6	23	1849
平成24年度	22	100	346	6	23	1839
平成25年度	33	129	372	6	24	1000

➤ これからの活動



講座受付支援活動

(1) 教養講座の運営支援

会員からの支援申込のエントリーのため、インターネットを利用して、メンバー及びセンターが支援情報を共有できる仕組みを構築しました。これにより、指定管理制度2年目を迎えセンター講座が急増する中、円滑な講座運営支援に当たることにします。

(2) 「悠学の会」企画講座の実施

センターの教養講座企画方針の下、企画講座のジャンル別・講座数等の実施枠を受けて、企画協力にあたることにします。講座の企画にあたっては、グループの活動等を通して得たお客様の声を大切に、楽しい学びの場を提供できるよう努めます。

映像活用グループ

➤ 活動の目標

大学などで開講される「公開講座」を、公開映像を通じて市民の皆さんが、生涯学習センターで受講できるように支援する活動です。

平成 12 年度に文部科学省が実施を始めた通信衛星を利用した「大学公開講座」—エルネット講座—を生涯学習センターで受信し、中継設備（受信機と映像加工機）を置き、受信作業は職員が担当して語学室（LL 教室）に配信し、ボランティアの協力で講座を開講していました。ICT 技術の急速な進歩により、エルネット講座は、平成 22 年度にインターネット方式に転換されました。しかしインターネット配信については、利用面で講座内容等が大幅に変更されることになり、利用できる講座が少なくなってきたため受信利用を断念しました。

現在では、収録された DVD 映像を投影することにより、ほぼ毎週火曜日午前に「映像による教養講座」を実施しています。

➤ 活動の実績

平成 15 年 10 月から平成 25 年度までの延べ受講者数は下表の通りで、多くの方々に、いろいろな形でお役に立てたものと理解しています。

映像講座の受講者数

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	(年度)
788	1214	1374	965	1145	1180	634	404	852	913	570	(人)

衛星放送時代には、テーマの範囲も、①政治・法律、②経済・経営、③生涯学習・まちづくり、④自然科学、⑤産業・技術、⑥環境・自然、⑦文学・文芸、⑧芸術・芸能、⑨教育、⑩歴史・地理、⑪宗教・哲学、⑫生活・いきがい、といったジャンルから成り立っており、幅広い知識をもたらすものとなって、有効に活用され、多くの視聴者から好評の声がもたらされました。

現在でも、(財)大学コンソーシアム京都の「プラザカレッジ京都学講座 和歌 ～ひとの心をたねとして～」や、「府中市教育委員会発行『新版・府中市の歴史』に学ぶ府中の歴史」、カラーセラピーといった講座が、人気講座として多くの方に視聴されています。

➤ これからの活動

- (1) 国立研究所等の公開講座の活用
- (2) 全国生涯学習ネットワーク講座の有効利用

によって、新しい題材を提供できるようにしていきます。



語学室での映像活用講座

パソコングループ

➤ 活動の目標

府中市民（特に中高年層）の情報化能力を高めることによる府中市の発展への寄与と、自らの技術力向上と生活の充実に努める。

➤ 活動の実績

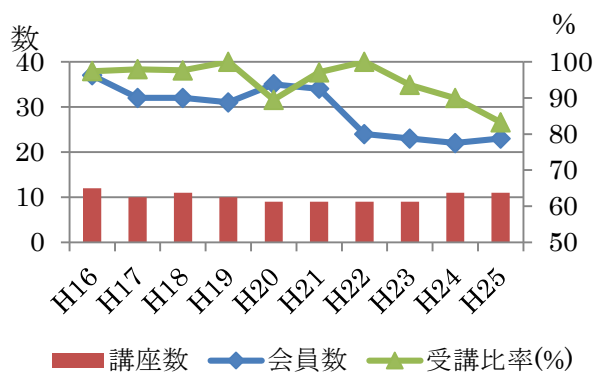
パソコンボランティアグループ (PVG) は悠学の会に先駆けて、府中市の要請でパソコン講座を始めたグループである。現在 25 名 (内女性 7 名) で活動している。

初期の講座は、受講申込者が定員の 3 倍とか 4 倍と超人気振りであった。受講者数の定員に対する割合を示す受講比率は 100%あるいはそれに近い値が続いたが、25 年は 83%に留まった。平成 23 年からワードの講座を新設した。講座品質を確保するために、各講座には責任者と副責任者を置き、更にメンバーを加えてグループで検討するようにし、見直し改善に努めている。

パソコンふれあい広場はパソコン無料相談室で、多いときは年間 250 名に達する程の盛況ぶりである。24 年より講座受講生のアフターケアの意味を持たせて、隔月に 1 回とフェスティバル開催時の計 8 回実施している。平成 19 年から始めた親子でうちわを作る教室は好評で現在も継続中。

PVG の運営管理のため Skydrive (現在は OneDrive) に 4 年前よりグループ登録し、関係するデータを保存する場所を設けた。これにより、PVG 関係のすべての管理資料・ミーティング議事録・情報・講座資料・講座記録・技術資料ほかをメンバーなら、いつでもアクセスできるようになった。さらに各講座の講師・アシスタントのエントリーに関して、現在はインターネット上のスケジュール調整システムを利用して各人が記入する方法へと事務の簡素化を図っている。いずれも PVG の活動をよりスムーズに行うために役だっている。

会員&講座数及び受講比率移行



➤ これからの活動

最近では応募が定員の半分以下の講座も出ている。PVG として出来る挽回策は、従来の講座を一部再編しつつ、魅力的な講座を企画していくことである。その一つは Photoshop Elements で、今年下期から開催出来るようにメンバー自身の勉強会を月 1 回のペースで進めている。パソコン室のパソコンが Windows 8.1 に更新されたので、Windows 8.1 の講座を新設した。これは広報ふちゅうに案内が掲載されるや、すぐ定員に達したとのことである。また、暮らしに活かすパソコン半日講座と銘打って、短時間に習得できる便利技を教えるパソコン講座を年 6 回のペースでスタートさせた。市民のニーズを把握することが狙いの一つである。そのほか skype による無料電話講座やスマホといった新しい携帯情報端末の講座も計画当中である。

府中市生涯学習フェスティバル



生涯学習センターでのフェスティバル
(2012. 9)

生涯学習センターが開設した翌年の 1994 年（平成 6 年）より、毎年 9 月に、生涯学習フェスティバル（府中市主催）が開催されてきた。今年（2013 年）は第 21 回目を迎える。

フェスティバルは、市民のみなさんの日頃の生涯学習の成果を発表する場であると同時に、新しく何かを始めたいと考えておられる皆さんが、さまざまな学習と出会う場でもある。子どもから大人まで、みんなで楽しめるフェスティバルとして、大勢の参加者でにぎわうようになった。



高野市長と井出美術館長が特別対談（講堂）
世界の名画を府中に～市民と語る美楽の世界～
左より、井出館長、高野市長、司会の浅利さん
(2013. 9)



アトリウムでの「子どもサイエンス」
手づくり科学おもちゃ工作教室
(2013. 9)



市民発表会（アトリウム）
ダンスや演舞や演奏（2013. 9）



サウンドフェスティバル
音楽グループの発表会（2013. 9）

府中市生涯学習フェスティバル

学習成果を発表する市民作品展（絵画、写真、陶芸、工芸など）、市民発表会（ダンス、演舞など）、サウンドフェスティバル（合唱、演奏など）、ワークショップ（体験教室）と、特別講演会や子どもサイエンス（手づくり工作）、軽スポーツなどのイベントが開催される。

「悠学の会」は、設立当初より、ボランティアとして、運営に全面的に協力してきた。2010年（平成22年）、第17回より、市の主催、公募市民による実行委員会方式で運営されるようになった。「悠学の会」会員は多数実行委員に参加して運営に参画するとともに、当日のボランティアとしても活動している。ワークショップには、毎回、「悠学の会」から、パソコンふれあい広場、映像上映会などで参加している。

市民作品展



パソコンふれあい広場

ワークショップ
(体験教室)



エコおもちゃ教室



お茶のお客様体験



紙コップタワー選手権



クラフトで遊ぶ



東日本大震災復興支援チャリティバザー



太陽観望会



陶芸体験教室

生涯学習ボランティア養成講座

「悠学の会」は、市が毎年開催する生涯学習ボランティア養成講座の企画・運営に協力してきました。講座では、学識経験者による生涯学習についての講義のほか、市職員による府中市の生涯学習施策の紹介、「悠学の会」会員による活動紹介、ボランティア体験談などが講義されています。受講者の中から、毎年、「悠学の会」へ、新しい方が参加されています。



ボランティア養成講座(2013.1)

会員の研修会・交流会

「悠学の会」設立以来、会員の研修、親交団体との交流を進めてきました。

- 2004年(H16)7月 八王子生涯学習コーディネータ会が来訪(13名)
- 2005年(H17)2月 三島市生涯学習センターを訪問(17名+職員2名)
- 2007年(H19)1月 羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」を訪問(30名)
- 2008年(H20)1月 鶴岡八幡宮と県立美術館、鎌倉国宝館を訪問(28名)
- 2010年(H22)3月 明治の鉄道遺産「大日影トンネル」を訪問(27名)
- 2012年(H24)3月 筑波宇宙センターと筑波山を訪問(19名)
- 2013年(H25)3月 足立区生涯学習センターを訪問(31名)
- 2013年(H25)11月 富士吉田市青少年センター「赤い屋根」を訪問(29名)
- 2013年(H26)1月 あだち学習支援ボランティア「楽学の会」が来訪(6名)



羽村市生涯学習センター訪問(2007.1)



富士吉田市青少年センター訪問(2013.11)

府中市 NPO・ボランティアまつりへの参加

2007年(H19)に第4回府中市NPO・ボランティアまつりに参加。以後、毎年、実行委員、ボランティア団体として参加しています。

「悠学の会」活動紹介のパネル展示、映像作成グループの作品投影なども行ってきました。



「悠学の会」の紹介(2007.11)

会員交流会「学びのサロン」

会員の学び合い、交流を目的に、2011年(H23)9月より月例で開催しています。会員や市民の方に、新聞記事や注目の本、自分史や趣味、ボランティア活動などについての話題を提供してもらい、参加者が自由に談論する場となっています。

会 員 の 声

☆ 私が持ち込んだ「親子パソコン講座」のウチワ作り パソコングループ 飯田 博

悠学の会 10 周年と聞いて、最初の「ボランティア証」を引っ張り出して見ると、発行日は確かに 10 年前の「平成 16 年 4 月 15 日」でした。ただし、ボランティア部門は「パソコン」で「悠学の会」ではありません。発足当初は、パソコンは独立してボランティアとして奉仕していました。10 年間の思い出は多々ありますが、私が持ち込んだ企画で、夏休み親子パソコン講座「パソコンでウチワを作ろう」が結構評判が良く今でも毎年実施しています。特に平成 22 年 8 月には、障がい者成人教室「あすなろ学級」の方が 30 名ほど見えて、糊やハサミを使ってウチワを作っていただきましたが、出来上がった時の嬉しそうな笑顔が忘れられません。学習センターが指定管理になってから、ボランティアといえども、自からより積極的に関わっていく必要があります。また、教室のパソコンも Windows8.1 に更新されました。

☆ ボランティア随想 学習情報グループ 磯田 愛三

離合集散世のならい、今は統合しグループ名が変わったが、“新聞クリッピンググループ”を顧みて更に将来の課題に触れてみます。零からのスタート、リーダーの山内啓司さんは日本十進法を活用し立派な実用的な分類法を立ち上げた。今みても誇れる出来栄えである。今は軌道修正し、例えば総会資料に詳細に記載されています。会員登録に当たり、次のことを心掛けました。

(1) 一兵卒として一工数としての責任を果たす。滅私奉公するには健康に留意し、加えて家族の理解を得る。

(2) 楽しくボランティアに精を出す。 以上二点は重要なものと信じます。

感動を覚えた記事を切り抜いてスクラップに集めた資料を活用して欲しいものです。

今後は困難を承知で掲載後の資料を K J 法の手法を借り、膨大な資料を集約し、いっそう役に立つ資料の提供に心掛けたく思います。

☆ ボランティア体験談 講座記録グループ 井戸 久和

私は、生涯学習ボランティア養成講座を経て、2005 年 10 月頃、講座記録班へ仲間入りしました。講演会の内容を冊子化するなど考えてもみませんでした。講座の選定から始め、テープ起こし原稿の作成等、今まで経験したことのない作業には戸惑いましたが、徐々に慣れてきて、何とか自分の持ち分を原稿にした時には安堵したものです。この作業以降も分担原稿のまとめや冊子の組み立て、印刷等全員で、わいわいガヤガヤ作業をするのは今までに経験したことのない時間となりました。

異業種の人達との交流を通して、会社人間にはない付き合いが出来るのが、ボランティア活動の良い所ではないでしょうか。今後ともこの活動を続けて行きたいと考えております。現在の冊子の装丁になった 2007 年 3 月刊行の「日本経済の現状と今後のゆくえ」から、講座記録グループの一員に、出版の専門家である W 氏の加入により、その内容は、日進月歩上達しているのは、自分一人ではないと思います。年 2 回の冊子化ですが、完成した冊子を手にした時は、その作業が苦しいほど喜びは倍増するのではと思います。



会員の声

☆ 学習ボランティア、黎明期から在籍して

講座記録グループ 太田 由美子

その豊かなこと楽しいこと、構成メンバーは現役を退かれたものの、精神的にも体力的にもまだまだで、向学心あふれる方ばかり。月一回の定例会はとても居心地のよい場所で、無理することなく、自分のペースで活動できた10年間でした。

その間、会を様々な形で卒業された方、また悲しいお別れもいくたびか経験しました。しかし、いつも、いつも新しい出会いがあり、こうして10周年を迎えることができたこと、嬉しく思います。

発足当初、今は亡き石川さんが、「こんなものを作りたいんだ」と見せていただいた冊子はとても完成度が高くて。なにしろこちらは全てが手作りで、パンチで穴を開けた用紙に黒ひもで閉じただけのものでしたから。時を重ね、版を重ね、有力メンバーの加入に助けられ、「こんな冊子」を編集出版できる今、改めて悠学の会ならびに関係者の皆様に感謝申し上げます。

☆ 「悠学の会」ある女性の想いから

講座記録グループ 小笠原 道雄

「悠学の会」10周年おめでとうございます。思えば私の「生涯学習」という言葉は、府中市の事業からの関わりで、『生涯学習センター「悠学の会」』につながります。初めは府中市の学習講座「英会話教室」です。先生のリズミカルな授業、この楽しい勉強を継続したいとの要望で英会話教室をサークルとして立ち上げました。その間、府中市職員とも関わりが出来、知人も増えてきました。その時期に誰とはなしに学習センターにボランティアの組織を創ろうという話が始めました。

市も、市主催の「ボランティア講座」を開講しました。終了後ボランティアの募集を行い、10数名の応募があり登録されました。そのうち幾度かの会合でボランティアの組織が誕生いたしました。名称、これはある女性の思いのこめられた『悠学の会』です。「ゆとりのある、先の長い(いつまでも)」の学習を意味する会です。

あれから10年も過ぎ仲間のなかには写真になられた方もおられます。「悠学の会」もこれからますます発展することを心より願っております。

☆ 時の過ぎゆくままに

パソコングループ 尾形 重夫

特に深〜い考えがあったわけではなく、パソコンくらいなら若干経験があるので、何か手伝えるかな〜と、参加してしまいました。友人からは行政の安上がりな手伝いじゃん！と批判されまして、うかつだったかな〜！と自己批判するところもありました。

しかし、乗り掛かった舟は、呉越同舟！いえいえ、さまざまにユニークな「村の渡しの船頭さん」連中で溢れかえっており、しかも、船頭多くして船山に登る！なんてことは一度もなく、受講者などそっこのけで？ 楽しく勉強させてもらいました。

そんなこんなで、大した手伝いもできないまま時が流れ、時の過ぎゆくままに馬齢を重ねてしまったことに、反省の念無きにしも非ずです。しかし、パソコンボランティアは、いつも反省だけはしっかり実行しておりますので、この辺が潮時かもしれませんか？

会員の声

☆ 悠学の会10周年おめでとうございます

パソコングループ 小澤 恒三郎

私が所属してきましたのはパソコンボランティアグループ（略称 PVG）、パソコンに関する講座の実施を活動の柱としています。その中で私は主としてデジカメ講座に関わってきました。この10年で写真はフィルムからデジタルへと大きく変化しました。10年前、学習センターでの写真講座といえば、センター内の現像ラボ利用のプリント作り講座でした。この講座にパソコンの技術指導をドッキングさせ現在の「デジタル一眼レフ講座」が誕生しました。以後、プロによる撮影指導、パソコンでの画像加工・印刷を経て作品展示会および講評というスタイルは今に至るも変わっておらず、人気を保つ一因となっています。

もし府中市内で写真の展覧会があり、そこに「デジタルフォト2011」または「写真」という名があったら、どうかじっくり観てやってください。どちらもこの講座の卒業生が立ち上げた写真クラブなのです。

☆ 学び返しはパソコンから

パソコン・学習情報グループ (OB) 加藤 政光

今から4年前、ボランティア養成講座の受講後、山内前事務局長に入会の意向を伝えたところ「まずは、各グループの活動を見学してから決めなさい」とのアドバイスをいただきました。結果、パソコンサークルに席を置かせていただくことにしました。パソコンは、生活に役立つ楽しいツールだと思ったからです。その後、市の「生涯学習審議会」からの答申で「学び返し」の理念が採り上げられました。私には、これこそボランティア活動の真髄だと閃くものがありました。ちょうど、その頃穴戸前会長から「情報誌管理グループ」の資料整理作業の手伝いを、とのお誘いがあり、その作業に早速パソコンが役立ちました。現在は、我が町の老人クラブでパソコン同好会を立ち上げて、まさしく「学び返し」を実践しているところです。4年間に及ぶ活動の思い出は数々ありますが、特に昨年「指定管理者制度」が導入され、これを機に念願の「学習情報コーナー」が役員各位の後押しをいただき実現したことは、特に思い出深い出来ごとです。近い将来、「学習“相談”コーナー」にレベルアップし、より一層発展してゆくことを心から願っております。

☆ 「生涯楽習だより」との出会い

情報紙作成グループ (OB) 佐伯 靖子

思い返せば、悠学の会に参加させていただいたのは10年前の事でした。いくつかのグループの中から情報紙作成班に入会致しました。取材と話し合いと推敲を重ね3ヶ月かけて情報紙を作るというやりがいのあるものでした。なかでも3年間書かせていただいた「武蔵府中郷土かるた」めぐりには感慨深いものがあります。班の人達とカメラを片手に標識設置場所を訪ねて歩き回り、関係者にお話を伺い、皆で討論を重ねて書き上げて、やっと「生涯楽習だより」に載った時はほっとしたものでした。しかし最初の「いろは」のところでは、専門の方から大國魂神社は大國魂神社であると違いを指摘され、他にも2,3ヵ所のお叱りを受けたりもしました。生半可な気持ちでは書けないと気を引き締めたことを憶えています。作り手と読み手を繋ぐ情報紙作りは、心を奮い立たせるものだと思っています。

素敵な方達に巡り合い、教えていただき、助けられた意義ある7年間でした。

会員の声

☆ 生涯学習センターのフェスティバルに参加して

講座記録グループ 島村 芳夫

—かけがえのない方々との出会い—

生涯学習フェスティバルに一昨年参加をした。担当は「受付」を希望。その際、ご一緒したのがSさん。とても手際良く活動をされる。一段落して、ボランティア室へ。そこに、Yさんがおられた。「君はどのグループに属しているのですか」と尋ねられた。「探しているのなら、講座記録グループへ」と手招きされた。それが、講座記録グループの一員となったきっかけである。メンバーが個性的。上述の方々。あと一名を例に挙げると、Wさん。昨年のグループの新年会へ行く途中に、「島村さん、‘へべれけ’という言葉がありますね。語源は何語でしょう？」とWさんに尋ねられる。日本語？ ギリシャ語？ フランス語？ 三択の問いかけ。正解はギリシャ語と。ゼウスの娘さん「ヘーベ」が「エリュエケする」（酒を注ぐ）がなまって「へべレケ」になったのだから。このように知識が豊かとなるグループ活動にご参加になりませんか。

☆ 友の輪

講座企画グループ 菅原 亘

4年前に広報で知り講習を受講している時に「悠学の会」の会員募集があり講座企画班の受付をやりたいと入会しました。東日本大震災の時も丁度受付をして、みなさんが避難の際ドアストッパーが上手くかからなかった瞬間は今だに忘れません。受付は3人位いて、いろいろな話が出来ます、班友の友達が講習に来ていて、親しく話すようになり、写真好きだった為に写真撮影のグループに参加させて頂き撮影会で撮った写真の交換などをして楽しんでおります。他の班友とは山の話で意気投合しこの4年間毎月一緒に登山をしています。また受付で他の班の人と話をする機会があり、それがきっかけで月2回料理教室に通い、はじめて自分で作って食べる楽しさを味わっています。「悠学の会」の一つ入ったお蔭でこのように輪が広がりいろいろな人と接し沢山の事を学び楽しい日々を過ごさせて頂いています。これからもこの輪を大事にしていきたいと思っております。

☆ 「悠学の会」の皆様へ

パソコングループ(0B) 西原 高喜

「悠学の会」設立10周年を迎えられるとのこと、心からお祝い申し上げます。
府中市生涯学習センターの初代パソコンボランティアに応募して以来、他のボランティアグループの皆様と「悠学の会」を立ち上げたこと。多くのボランティアのみなさん、市職員の皆様と活動した文化祭・講演会。市民の方にパソコン学習室を開放しての「パソコン学習広場」の開設など懐かしく思い出しております。私は七年ほど前に30数年住み慣れた府中市を離れ宇都宮市に居住しております。府中市に居たときのようにボランティア活動を続けたいと思い、NPO法人の「栃木県シニアセンター」に所属して、シニアの方々にパソコン・タブレットなどの学習のお手伝いをしており、張りのある生活を送ることが出来ております。これも府中在住時に悠学の会在籍時に経験したこと、勉強したことのお陰と感謝しております。これからも「悠学の会」様の活動の末永きご発展をお祈りしております。

栃木県宇都宮市在住



会 員 の 声

☆ 10年を振り返る

学習情報グループ 矢野 茂

私は二つの勤務箇所を合わせて52年間仕事をしてきた。お蔭様で可もなく、不可もなしと自分では考えている。それから自由の身になって、地域の一隅で生涯学習センターボランティアとして12年が経過した。10年ひと昔という。悠学の会も発足から10年の歩みである。私の関係した学習情報誌の記録とファイルの作業を振り返ってその扱った件数が2,878件を知り、よくも、やっつかりの感と同時に、10年の歳月の重みを知った。日頃私達の作業がどれ程市民のための学習情報として役立っているか、と頭をよぎる。そのことは会員の間でも話合っている。しかし積み積もった2,800の学習情報誌の記録は今後も継続されていくだろう。会員のグループ内の親しい語り合いと、会員全体の相互の働きで、生涯学習ボランティアの今後の10年の歩みは作られていく。私は「一隅を照らす」という言葉が好きだ。

☆ ボランティアと地縁 ～伝統の街に移り住んで～

講座企画グループ 宮原 英明

地域で「伝統の町」と言える地域に移り住んで16年。仕事から解放され、地縁への指向をめざし、地域の活動への参画、悠学の会ボランティアなどに参加し始めたのは7年前。

地域での価値観の共有に苦悩するも、未知の地で知己の輪が広がったことは何よりの財産と思っている。一方、数あるボランティア団体の中で、悠学の会を選んだのは、特別の志あつてのものではありません。なにかのキッカケで講座企画グループの定例会に体験見学したのが始まりでした。

手がけた企画講座は、オリジナリティを目指したものの、企画から集客まで企画能力と人脈ネットワークの手薄さもあつて苦戦は免れなかった。指定管理者制度導入を控えた2年前、グループリーダーを引き受けることになった。以来、及ばずながら、市民の目線を大切に学習センターとの新たな関係構築に向けて知恵を絞っていきたくと励む毎日です。その一方、今年、喜寿を迎え世代交代が急務と考えるので、悠学の会の活性化のためにも速やかに後進にバトンタッチしたいと考えている。

☆ 印象に残った研修会

映像作成グループ 設楽 厚子

市の職員の石川氏の発案で、「童謡の歌碑を訪ねて」、「算額に学ぶ」などを皮切りに始まった研修会も今年で10年目となります。内容のあるものばかりでした。特に印象に残ったのは、平成17年の三島市生涯学習センターでの研修です。行政と市民が協働して、どぶ川を市民の手で再生させようと取り組んでいる様子でした。その結果が、昨年、府中市での市民協働シンポジウムで、再生成功の実例として発表されたのです。8年もの歳月をかけて取り組んできたこのことです。映像に映された清流に飛び交うホタルに歓声をあげて喜ぶ市民の姿に感動しました。

府中市では、「悠学の会」も協働活動の先駆的団体として地道に歩んできました。未来を見据えた活動により、きっと素晴らしい社会教育関係団体として成長していくことでしょう。会員の積極的な活動を期待し、これからも研修と交流を深める事業にはぜひ、参加してほしいと願っています。



会員の声

☆「生涯学習だより」とともに

情報紙作成グループ 田井 美和子

学習ボランティア第一期募集は平成14年4月でした。説明会、ボランティア養成講座、4班に分かれてのワークショップを体験し、一番興味をもった情報紙づくりを選びました。創刊号は、9月に行われる生涯学習フェスティバルの特集を作ることでした。ふちゅう東西南北『生涯学習だより』と名付けて編集作業が始まり、右も左もわからない者同士が頑張って、なんとか印刷にこぎつけました。その頃私が初めて書いた記事はJRA競馬博物館の取材です。不慣れなインタビューにも丁寧に答えてくれた学芸員さんを今でも覚えています。“楽しくボランティア活動をしよう”を合言葉に、それぞれが知恵や力を出し合って編集に当り、パソコンのスキルアップにも取り組み、企画・取材・原稿おこし・校正・レイアウト・印刷など何とかこなせるようになりました。いつの間にか10年、努力を惜しまず頑張ってきた仲間と共により良い『生涯学習だより』を作っていきたいと今思っています。

☆ 生涯学習ボランティア活動とのご縁

情報紙作成グループ 森山 レイ子

平成になって間もない頃から、高齢社会を元気で楽しもう！と心掛け、毎朝夫と共に散歩を始め、浅間山から府中の森（現在の生涯学習センター前）を歩くのがそのコースでした。その頃、我が家から徒歩10分ほどのこの森に市民の新しい学びの場である「生涯学習センター」の工事が始まり、平成5年の完成が楽しみでした。当時私は定年退職を前にして「生涯学習」に関心を強めていたので、さっそく開設された講座を受講したり、図書室やプールも活用。平成13年、市公募の生涯学習推進協議会委員にも応募し、2年間「生涯学習ボランティア育成関連」の討議を重ねていました。平成14年、ボランティア養成講座開設、生涯学習ボランティア第1期生誕生。その一人として、以来、同期の仲間達と市民への学習情報発信を目的として発行した『生涯学習だより』の編集や、フェスティバルなど館内諸行事に協力し、“多くの出会いで学ぶ楽しさ”に魅せられ今日に至っています。

☆ 自分の居場所探し

情報紙作成グループ 根岸 光紀

会社を退職し二年目に入りこれから先の人生を考えるに、何か今までのサラリーマン生活とは一切関係の無い拠り所（居場所）を見つけたい、との思いが強くなった。インターネットで株取引を始めたり、市内の各種講演会を聞きに行ったりと、しかし何か違う気がしていた時に出会ったのが、学習センターのボランティアだった。行動することが何か人の役に立つ、これがもしかしたら自分の居場所ではないかと。新しい人たちとの出会い、新しい知識を得る、自分の知識も多少人の役に立つ、そして人に喜んでもらえる。それから9年、今では町内会とのかかわり、老人クラブ、包括支援センターさんとのつながりなど輪が広がるばかりで、家内や散歩の相方の愛犬からも出かけるたびにクレーム続出で、逆に家のなかでの居場所がなくなった感のある今日このごろ。どこで間違ってしまったのかと反省しきりも、そうだ、今日は学習センターへ行く日だといそいそと出かけて行く自分、そうこれで良かったのだと思いながら。



府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
10年のあゆみ

発行日：2014年(平成26年)8月31日

発行：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

183-0001 東京都府中市浅間町1-7

府中市生涯学習センター内

電話 042-336-5700 内線 215

Email yuugaku.fuchu@gmail.com

編集委員：奥野 英城、島村 芳夫、新谷 一視、鈴木 和代
田井美和子、根岸 光紀、森山レイ子、三宅 昭、
山内 啓司、渡辺 志郎
